

国際フロンティア産業メッセ2023出展レポート

ー多文化社会のケアリングと多様性のマネジメントー

野地 有子^{*1}・片山 はるみ^{*1}・秦 久美子^{*1}・富安 敏子^{*1}
楠本 真生^{*1}・神田 龍^{*1}・橋詰 公嗣^{*1}・森崎 直子^{*1}・菅野 夏子^{*1}

Exhibit Report on the International Industrial Fair 2023 Kobe “Caring and Managing Diversity in a Multicultural Society”

Ariko Noji^{*1}, Harumi Katayama^{*1}, Kumiko Hada^{*1}, Toshiko Tomiyasu^{*1}
Masao Kusumoto^{*1}, Ryo Kanda^{*1}, Hirotsugu Hasizume^{*1}
Naoko Morisaki^{*1}, Natsuko Sugano^{*1}

要旨

2023年9月7日・8日の2日間、神戸ポートアイランド国際展示場で開催された国際フロンティア産業メッセ2023に出展した。本学からの出展テーマは「多文化社会のケアリングと多様性のマネジメント」、目的は教員の研究成果と専門職育成の教育実績を基盤に情報発信し、多様なステークホルダーや市民そして他大学や高校生との交流を促進するとした。その結果、本学ブースには100人余の参加者があった。そのうち8割が県内の団体参加による高校生であり、その他は個人参加の市民、出展企業関係者などであった。海外からの本学ブース来場者は、米国、ウクライナ、インド、中米のパナマ、中国からの個人とグループであった。体験型展示の参加者を中心に、参加後アンケートにより展示ブースの印象などを聞く振り返りを行った。賛同者に3問からなる無記名の自記式アンケートを依頼し、2日間で81人の回答がみられた。展示の印象、わかりやすさ、参考になったかのいずれも93%以上の回答がみられた。社会のグローバル化が進む中、看護系大学の役割と次世代育成の視点から、看護専門職の中核的概念について、わかりやすく市民や高校生に伝える発信活動を実施した。

キーワード：国際フロンティア産業メッセ、多文化社会のケアリング、多様性のマネジメント、体験型出展、看護学と看護実践の展示

I. はじめに

兵庫県で開催された国際フロンティア産業メッセ2023は、企業や大学・研究機関による先端技術の紹介や新事業創出の基盤となる製品展示を中心に、基調講演、特別講演、各種セミナーや交流会など多彩なプログラムを展開し、技術交流・ビジネスマッチングを進める機会を提供するものである。展示内容は、DX（ICT・ロボット）／健康・医療／環境・エネルギー／航空・宇宙（ドローン含む）／電気・電子／ものづくり／ライフスタイル／地域振興・地場産業／グループ出展／産学連携・支援機関であった。今回は、26回目の開催となりポストコロナで3年ぶりの開催であること、阪神・淡路大震災から30年となる2025年開催の大阪・関西万博にむけた未来社会の実験場としての意義、ウクライナ企業との交流などが特徴となった。姫

路大学は出展分野として、ひょうご科学技術協会によるグループ出展の機会を得たので実施内容について報告する。

II. メッセ出展の目的と実施経緯

姫路大学では、カナダのビクトリア大学と国際交流協定を結び、学生や教職員の国際交流を展開している。カナダは移民を多く受け入れている国であり、多文化共生を実践してきた技と社会システムがみられる。また、国際交流の成果を教育と研究に活かし、SDGsの目指す地域や組織の国際競争力を高め、誰一人取り残さない社会達成に向けた人材育成に取り組んでいる。そこで、教員の研究成果と専門職育成の教育実績を基盤に情報発信し、多様なステークホルダーや市民そして他大学や高校生との交流を促進することを

*1：姫路大学看護学部・Himeji University, School of Nursing

目的とし、産業メッセ出展テーマを「多文化社会のケアリングと多様性のマネジメント」とした。テーマ選定にあたっては、本学の特徴の一つとしてグローバルヘルスがあげられ、過去の本産業メッセ展示に継続してグローバルヘルス関連のテーマを出展していること、多文化社会への対応はわが国の喫緊の課題であり、看護人材育成を担う大学の重点テーマの一つであることを踏まえた。

実施経緯は、5月に出展登録、7月に出展者説明会、8月に出展ブース（W2000×D1500×H2700）の設計とレンタル備品発注、9月開催日前日の会場搬入と設営の準備を行った。物品の準備、ブース設営にあたって、教務・学生・厚生課および入学・キャリアセンター職員の協力を得た。出展内容は、看護学部の教授会、教員会議、領域長で検討し、これまでの本学からの出展内容および方法を参考に構築した。

Ⅲ. 日程と出展者および参加者

2023年9月7日（木）・8日（金）の2日間、神戸ポートアイランド国際展示場において、大学・高専ブースG-23での出展を行った。全体の出展数は、441社・団体、528小間であり、そのうち大学は本学を含めて8大学みられた。産業メッセ全体の参加者は、1日目は約6,300人、2日目は約7,300人の合計約13,600人であった¹⁾。本学ブースへは、2日間でおおよそ100人余の来場がみられた。そのうち8割以上が県内の団体参加による高校生であり、その他は個人参加の市民、出展企業関係者などであった。海外からの本学ブース来場者は、米国、ウクライナ、インド、中米のパナマ、中国からの個人とグループであった。

Ⅳ. 本学の展示内容と現地実施体制

本学の展示内容は、ポスター3題^{2) 3) 4)}と展示品8件から構成された。ポスターは出展テーマ「多文化社会のケアリングと多様性のマネジメント」に沿った内容で、教員の研究成果を学会発表したポスターを用いた（表1）。表1に示したように、3題のポスターとも本学教員による専門職育成の教育実績の一環であり、看護教育と臨床との往還という看護研究の基盤を成す研究成果によるものである。3題中2題は国際学会で発表した英語ポスター、1題は国内学会で発表したポスターでイラスト中心の内容であった。展示品の8件は、表2に示した。新生児人形、血圧計と聴診器、パルスオキシメータを用いて、体験型の展示とした（図1）⁵⁾。参加者が体験できる内容は、新生児人形を実際に手にすること、タイコス型血圧計による測

定を受けること、聴診器で自身の呼吸音と心臓の拍動音を聴くこと、パルスオキシメータによる動脈血酸素飽和度と脈拍数の測定であった。

また、姫路大学のブースに来場し、体験展示の参加者を中心に、参加後アンケートを実施した。今回の展示の振り返りと、今後の本学展示の改善のための意見を聞くもので、賛同者に無記名の自記式アンケートの記入を依頼した。質問は3問で、1. 展示ブースの印象（よい、どちらでもない、あまりよくない）、2. 展示内容について（興味深い、どちらでもない、わかりにくい）、3. 参考になったことがありましたか（あった、どちらでもない、なかった）であった。3問とも、その理由を記載する自由記載欄を設けた。

現地実施体制は、前日の搬入と設営に3名（教員1名、事務職員2名）、展示1日目は担当教員3名と協力教員3名であった。展示2日目は、担当教員4名と協力教員2名に加えて、撤収のために事務職員2名の体制で実施した。担当教員は終日、協力教員は一部の時間ブースに立ち会った。役割は、ブース来場者への本学紹介、展示説明と体験、質疑応答、希望者への血圧およびパルスオキシメータ測定、資料と大学名入りボールペンの配布、アンケート依頼と回収などであった。



図1 本学展示ブース

表1 出展ポスターのテーマと概要

ポスター1 日本における反復性流産の女性の体験－インタビュー調査研究－

(Kumiko Hada, et al, ICM, 2023)

不育症とは妊娠はするが流死産を繰り返し生児の得られない疾患である。不育症の原因として抗リン脂質抗体症候群や子宮形態異常、夫婦の染色体異常、胎児染色体異常など様々な要因が指摘されている。高齢化で流産は増加がみられる。A病院外来で13名の女性にインタビューを行い、反復性流産についての知識の普及や、仕事を継続するためのコンサルテーションなどの必要性が示された。

ポスター2 臨床看護師における倫理的コンピテンシーの難易度ラダー構築可能性の検証

(Harumi Katayama, et al, EAFONS, 2020)

看護実践における倫理的コンピテンシーの難易度ラダーが構築できるかどうかを調べるため、地方都市の中核病院で働いている看護師809名を対象とした無記名自記式質問紙調査を実施した。質問項目は、年齢、性別、看護経験年数などの基本項目に加え、倫理的ケアコンピテンシー（22項目）、労働意欲尺度（15項目）、身体拘束認知尺度（17項目）から構成された。コンピテンシー項目間の差と外部変数との相関関係から、倫理ケアコンピテンシーの難易度ラダーを構築できる可能性が検証された。

ポスター3 病院と看護の国際化ガイドラインの検討－文化多様性の包摂と医療格差の解消－

(野地有子ほか、千葉看護学会、2022)

外国人患者や外国籍看護師の増加により、ベッドサイドでの看護師の戸惑いも大きく、個別対応では医療安全の保障が担保されない。病院と看護の国際化ガイドラインを、国内外の指針と看護職の経験知の集約から12項目にまとめたところ、日本の取り組みの課題が3点明らかになった。

表2 出展展示の内容

展示1	海外研修 カナダ__ビクトリア大学との国際交流
展示2	災害関連グッズ一式
	① アウトドア医療キット
	② ファーストエイドキット
	③ 多言語防災ガイドブック
展示3	新生児人形
展示4	血圧計（タイコス型）、聴診器、パルスオキシメータ
展示5	ポスター関連図書
展示6	姫路大学紹介動画（（日・英）と大学ロゴ
展示7	ひめみちくん（ゆるキャラぬいぐるみ）
展示8	のぼり旗（行くぞ姫路大学、JANPU大学で看護を学ぼう）

V. アンケートからみた本学展示結果

アンケートの記入時間は、1～2分であった。本学ブース来場者のうち2日間のアンケートへの回答者は81名みられた。その内訳は、高校生74名（91.4%）、その他7名（8.6%）であった。

問1. 展示ブースの印象

展示ブースの印象は、よい77名（95.1%）、どちらでもない2名（2.5%）、あまりよくない2名（2.5%）であった。その理由を自由回答からみると、よいの回答で多かったのは、「明るく接してくれて色々体験できた、話しかけやすく行きやすかった、興味がわい

た」、「体験型で学生にも分かりやすい、大学で学べることを体験できた」、「はじめて血圧を測った、聴診器を使わせてもらった」、「赤ちゃんがかわいかった、重さを実際に体験できた」などであった。そのほか、「いろいろ情報がのっていた、看護についてのプリントが分かりやすかった」、「ぬいぐるみがかわいかった」、「研究ポスターが貼ってあり興味深かった」、「多面的な意見、客観的な立場に深く関心した」、「出展タイトルを見て来ました」などがあつた。あまりよくないの2名の回答は「難しそう、わかりにくい」であった。

問2. 展示内容について

展示内容については、興味深い76名（93.8%）、どち

らでもない3名(3.7%),あまりよくない2名(2.5%)であった。その理由を自由回答からみると、興味深いで回答が多かったのは、「実際に参加して楽しむ事ができた、様々な体験ができておもしろかった、この展示会にはなかった体験が豊富でとても新鮮で楽しかった、実演を通して自分の体について知ることができた」などであった。そのほか、「本や資料がたくさんあった」、「壁の資料が興味深かった」、「ひめみちくんが沢山いてかわいかったので会いに行きたい」、「学校の映像など」であった。また「看護師に興味があった、看護師はどこにでもいるイメージだが、国際的なスキルが必要だと分かったから、看護についてのことが良く分かった」の記載もみられた。

問3. 参考になったことがありましたか

参考になったことはありましたかは、あった77名(95.1%),どちらでもない3名(3.7%),なかった0名、無回答1名であった。その理由を自由回答からみると、あったで回答が多かったのは、「看護師について知れた、新しい職業について知れた、看護師の仕事に知らないことがまだまだあるのだと感じた」、「将来の進路の参考にしたい、姫路にすごい大学があることを知れた」、「赤ちゃんの抱っこの仕方、15年前の母親に感謝、親になったときのことを実感できた」、「工学と医療の組み合わせを発見できた」、「自分の血圧が知れた、看護で使用している器具について知れた」、「今後も健康でいるために何が必要かわかった」などがあった。大学の研究について知りたいと参加した企業の方からは、ポスター1から「企業として女性職員のサポートが大切と再認識した」との記載がみられた。

VI. 考察

今回の産業メッセ2023出展の目的は、本学教員の研究成果と専門職育成の教育実績を基盤に情報発信し、多様なステークホルダーや市民そして他大学や高校生との交流を促進することであった。特に世界や日本におけるグローバル化が進む中、看護系大学の社会的役割と次世代育成の視点から、看護専門職の中核的概念について、わかりやすく市民や高校生に伝えられるかを大切に、展示テーマを「多文化社会のケアリングと多様性のマネジメント」とした。出展実施結果に沿って、ポスター、展示品および看護の展示について考察する。

1. ポスターについて

ポスター1は、母性看護学領域から反復性流産についての知識の普及と仕事を継続するためのコンサルテーションなどの必要性を示した。ポスター2は、基

礎看護学領域から臨床看護師における倫理的コンピテンシーの難易度ラダー構築可能性の検証結果を示した。ポスター3は、グローバルヘルス看護学領域から病院と看護の国際化ガイドラインを12項目にまとめ、日本の取り組みの課題3点を明らかにした。3題のポスターをブースの2面に張り出し、写真やイラストも多用し見やすい展示になるよう配置した。補足として関連図書の展示を行ったところ、図書の展示についてもよい評価がみられた。学術学会で発表したポスターを用いたため、短時間で内容の理解を得るのは難しいと考えるが、大学教員の活動の紹介として展示したところ、学生を含む来場者との意見交換のきっかけとなった。出展企業の来場者からは、看護の専門的切り口や自企業への応用について語られ、またウクライナの来場者はビジネススタンダード作成者でありマネジメントの視点から意見交換を行った。ポスター展示を中心に、ブースの展示テーマの一貫性を担保することができ、多様な交流を生み出すことができたと考えられる。

2. 展示品を活用した体験型展示について

展示品は表2に示した8点であった。新生児人形、血圧計などを用いて、体験型展示を行った。アンケートの自由記載にも、「実際に参加して楽しむ事ができた、様々な体験ができておもしろかった、体験が豊富でとても新鮮で楽しかった」など、本展示ブースの特徴を捉えて参加の意義を述べている例が多くみられた。

新生児人形については、高校生では初めて抱っこする人のぎこちなさに対して、小さな兄弟姉妹のいる人の慣れた様子などがみられた。本学の助産師の教員からは赤ちゃんの抱っこの仕方や赤ちゃんの特徴なども話されて来場者との交流が進められた。本学の看護師の教員からは希望者にタイコス型の血圧計で血圧測定され、「自分の血圧が知れた、看護で使用している器具について知れた」などがアンケートの自由記載に多くみられた。高校生では初めて測定する人も多く、あわせて聴診器で自身の心音を聞くことも行い、自分の身体や健康について目を向ける時間となっていた。本学の保健師の教員からはまちの保健室に準じた保健指導も行われ、「話がおもしろかった、今後も健康でいるために何が必要かわかった」などの声もみられた。博物館学が専門の新井重三によれば、展示はコミュニケーションのひとつの形態であり、目的を持って大衆に「見せる」ことであると述べている。さらに、提示型展示(Presentation)と説示型展示(Interpretation)に大別され、これに参加型展示(Do it yourself)、体験型展示が付加される可能性を述べている。参加型展

示は、利用者が身体を使って行動することによって成り立っている体験学習の場であると述べている⁶⁾。今回の提示型展示と説示型展示に加えて実施した体験型展示により、来場者は本ブースでの自身の健康を振り返るなどの体験の機会を得ていた。さらに、看護専門職である本学教員との交流により、健康と生活や多文化共生について話しをするプロセスを通して、参加者の気づきや体験をより深いものにしていったことが考えられる。

3. 看護学と看護実践の展示について

看護学、看護実践という専門職からの情報発信には3つの方向性があることが、Mery Jo Clarkにより示されている⁷⁾。それらは、学術アカデミア、臨床クリニカル、そして市民シティズンの3方向である。今回の産業メッセ2023への出展は、このうちの市民シティズンが対象となった。またその中でも、市民、出展企業、高校生や海外からの参加者といった多様性があり、参加者数も1万人を超える3年ぶりの対面での開催という特徴がみられた。

本ブースを訪れた一般市民、出展企業担当者、海外からの参加者との意見交換では、各自の仕事や専門性の部分において、本展示の看護学、看護実践からイメージされた応用やアイデアが語られていた。本展示の切り口が面白いとの声もきかれた。これは、ポスターによる提示型展示（Presentation）と本学教員による展示企画者の考えや主張を説示する説示型展示（Interpretation）の効果と考えられる。また、体験型展示は多くの高校生の参加がみられ、将来の職業選択に看護師を含めて考え始めたり、職業選択に関わらず知らなかった看護師の仕事の広がりについてイメージを持つことのきっかけになっていることがうかがえた。看護の仕事の国際展開についても、自由記載に触れられていた。本展示企画で大切にしたい、「わかりやすく看護学、看護実践について、また看護職の人材育成を行う姫路大学の特徴を発信し、参加者ひとり一人の生活や体験にいかに関護がつながりを持つか、あるいはそのことに気づけるか」を柱とした展示の実践により、ブース来場者に対して、看護の専門性について関心をもって理解と発見の機会を提供する空間を構築することができたと考える。

会期中に会場にて兵庫県国際交流協会より、兵庫県とトルコの震災関連の国際交流に関するセミナーの情報提供があった。本学1年次の異文化看護論の開講前のタイミングであったので事前学習の選択の一つとして履修学生に案内したところ、40名の本学学生の参加がみられた。展示出展者間の交流とフォローアップも展示会のメリットと言われているが、本学の教育にも役

立てることができた。

Ⅶ. まとめ

兵庫県で開催された国際フロンティア産業メッセ2023に、出展テーマ「多文化社会のケアリングと多様性のマネジメント」を出展した。目的は、教員の研究成果と専門職育成の教育実績を基盤に情報発信し、多様なステークホルダーや市民そして他大学や高校生との交流を促進するとした。その結果、メッセ全体では約13,600人、本学ブースには100人余の参加者がみられ、地域に根差した大学としてのプレゼンスを高め、産・官・学の連携の基盤と、看護学および看護専門職の意義を次世代に発信することができた。今後も継続することが、重要になると考える。

Ⅷ. 謝辞

公益財団法人ひょうご科学技術協会播磨産業技術支援センターの河本和也氏には、出展申し込みからブース準備と当日の運営から撤収まで長期間にわたりご指導ご支援をいただいた。また同協会よりブース利用料とレンタル備品料の助成を得た。本学の教務・学生・厚生課の、廣岡雅美氏、白石卓司氏、山田憲豊氏、俣木洋子氏には、出展準備・搬入・設営・撤収と大変な作業を協働していただいた。また教職員の皆様には、出展チームが会場に出られるようご協力いただいた。入学・キャリアセンターからは、大学案内、ゆるキャラなど展示に必要な資料と物品をご準備いただいた。ここに感謝の意を表する。

本報告において、申告すべき利益相反（COI）はない。

Ⅸ. 文献

- 1) 国際フロンティア産業メッセ実行委員会：国際フロンティア産業メッセ2023, <https://www.kobemesse.com/>, 2023年9月15日。
- 2) Kumiko Hada, Mitsuko Ohira, : Women's experiences of Recurrent Pregnancy Loss in Japan: A qualitative descriptive study, 33rd ICM Triennial Congress Bali Indonesia, 2023.
- 3) Harumi Katayama, Taeko Muramatsu, Mina Suzuki, et al. : Verification of the possibility of the difficulty ladder construction of the ethical competency in clinical nurses, EAFONS, Thailand, 2020.
- 4) 野地有子, 野崎章子：病院と看護の国際化ガイドラインの検討－国内外指針と看護職の経験知の集

約から－, 第28回千葉看護学会学術集会, 2022.

- 5) 姫路大学: <https://koutoku.ac.jp/himeji/news/>国際フロンティア産業メッセ2023に看護学部が出展/, 2023年10月15日.
- 6) 新井重三: 展示と陳列の意味について, 博物館学雑誌, 17 (1-2), 25-36, 1992
- 7) Mary Jo Clark: Writing for the Nurse Researcher, 看護研究者のためのライティング, 看護研究, 35 (1), 87, 2002